

令和4年度 第2回 第1層協議体 議事要約

日時：令和5年3月17日（金）

午後2時～午後3時50分

場所：枚方市保健センター 4階 会議室

発言者	内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、令和4年度第2回第1層協議体を開催いたします。</p> <p>本日はご多用のなか、本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>はじめに、健康づくり・介護予防課 課長代理からご挨拶をさせていただきます。</p>
事務局	<p>平素は、本市高齢者保健福祉行政にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>本日は、お忙しいところ、令和4年度第2回第1層協議体にお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>この第1層協議体は、介護予防・日常生活支援総合事業における生活支援サービスの体制を整備するため、関係機関のみなさまと地域の課題を共有し、意見交換を行いながら、ともに地域包括ケアシステムを創り上げていくためのものです。</p> <p>様々な会議の場で地域課題の抽出を行っておりますが、その課題解決には特効薬のようなものはなく、簡単に結論や解決策が見つからない課題も多数あるかと思えます。また、課題解決に向けた具体策についても地域の実情に応じてできるところから一歩ずつ進めていければと思っています。</p> <p>本日は、皆様から忌憚ないご意見をいただき、地域課題の解決に向けて糸口を探っていければと考えております。</p> <p>限られた時間ではございますが、ご協力いただきますよう、よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症に関する対策については、3月13日から若干の緩和が見られたところではありますが、本日の参加者されている方々は高齢者と直接関わる業務にあたられている方ばかりですので、みなさまにおかれましては、マスクの着用をよろしく申し上げます。また換気のため一部の窓を開放しております。</p> <p>それでは、本日の案件とお手元の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の案件は、案件1が第2層協議体事務局事務及び元気づくりコーディネーター事務委託契約について、案件2が地域課題の検討について、です。</p> <p>資料の方は、案件1について、資料1-1 令和5年度枚方市生活支援体制整備「元気づくり・地域づくり会議（第2層協議体）事務局事務」仕様書と、資料1-2 令和5年度枚方市生活支援体制整備「元気づくり・地域づくりコーディネーター事務」仕様書です。案件2について、資料2 地域課題の検討となります。</p>
事務局	<p>それではこれから、次第に沿って案件を進めていきます。</p>

事務局	<p>案件 1 です。第 2 層協議体事務局事務及び元気づくり・地域づくりコーディネーター事務委託契約について説明をさせていただきます。資料 1-1 と 1-2、第 2 層協議体事務局事務の仕様書(案)及び元気づくり・地域づくりコーディネーター事務の仕様書(案)につきまして、業務内容等は、今年度のものと何ら変更しておりません。</p> <p>これにつきましては、現在元気づくり・地域づくり会議、第 2 層協議体において、取り組まれている内容が、その設置時期の関係で状況が様々であることと、このコロナ禍で地域活動が長期にわたり停滞していたところもあります。令和 5 年度は、コロナ禍に停滞した様々な活動のリ・スタート、というところが大きな課題としてありますので、現時点で委託内容の業務を変更することは得策ではないということで、現在と同じ仕様としております。また、業務委託の内容を変えないので、委託金額は今年度と同額と考えております。</p> <p>なお、それぞれの仕様書には裏面 5. 個人情報保護の項目の※印部分を追記しています。これは、この令和 5 年 4 月 1 日から個人情報保護に関する法律の適用を市が直接受けることとなるなど、個人情報の保護に関する各種法令の整備が行われる関係上、今回記載が必要になったものです。</p>
事務局	<p>案件 1 につきまして、ご意見やご質問はございますでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見、ご質問がないようですので、この案件 1 につきましてはこちらの説明の通りとさせていただきます。今後契約に係る事務手続きを進めてまいりますので、よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>引き続き、お手元の資料 2 地域課題の検討についてに移りたいと思います。</p> <p>A4 の横長の資料の 2 ページをご覧ください。</p> <p>枚方市では、高齢者の保健・医療・福祉・介護サービス等の社会的基盤が有機的に連携するための環境整備を行うとともに、高齢者及びその家族が尊厳を保ちながら住み慣れた地域において生活できるよう、個人で解決できない課題等を多職種で解決し、そのノウハウの蓄積や課題の共有によって、「地域づくり・ネットワーク構築・資源開発・政策形成」等につなげることを目的とした「地域ケア会議」を設置しております。その構成図は 2 ページの下半分となっております。</p> <p>第 1 層協議体、あるいは校区で取り組んでいただいております元気づくり地域づくり会議（第 2 層協議体）は、そういった地域ケア会議の一角を担う協議体ということになります。</p> <p>資料の 3 ページをご覧ください。</p> <p>各種地域ケア会議で抽出されました地域課題は、その日常生活圏域、第 2 層協議体についてはさらに、より地域に密着した課題をということで小学校区単位ということになりますが、日常生活圏域それぞれに地域包括支援センターを配置し、そこで検討するとともに、市全域の地域ケア会議で課題を整理し、課題解決に向けた優先順位づけを行いながら、市全域で取り組むべき内容なのかどうかを検討しているものと</p>

なります。たとえば、第2層協議体において検討された地域の課題等について、課題区分を選択し、その課題、そこからの提案と効果を第2層協議体で検討していただき、今後の方向性を選択していただくものとして、会議録別紙の課題抽出シートがあります。これは第2層協議体事務局が記入し、提出することとなっていて、それを第1層協議体事務局でとりまとめた「課題抽出シート」を資料としております。第1層協議体では、地域の課題等を共有し、優先順位や必要性の検討をしていくものです。

資料の3ページから7ページは、日常生活圏域内で具体策につながった地域課題となります。

例えば樟葉校区、樟葉校区は樟葉北、樟葉南と3つあわせて第1圏域になるのですが、そこで合同で色々なことに取り組まれるところが多くて、介護予防の知識の共有などそういう活動をしたという課題があったときに地域包括支援センターこもれびが事務所内の会議室スペースを活用して色々な教室、「こもれびサークル」という名前をつけて定期的に色々な取り組みをやっているというのがあります。

あと、樟葉西校区では、令和3年度に抗原検査キットを購入していつでも使えるようにしようと、希望に応じて検査しますよということやっておられたり、ここに書いていない令和2年度には不織布のマスクがもうどこも世の中から払底している時に、布を調達されて布マスクを作られて学校などに配られたとか、色々と時期に応じた課題解決に色々と取り組まれておられます。

殿山第二校区では、生活困窮世帯の方に配付する食料の備蓄をやっておられたり、地域によって課題もまちまちで、それに依って各校区内でこういう具体策がと、もちろん各校区が可能な範囲でとなるのでしょうけれど、対策を取られているということです。

桜丘校区では、今後災害時など、スマートフォンが使えないと困る、高齢者の方がスマートフォンを使えるようになっておこうということで、携帯電話会社の協力を得てスマホ教室を開催されています。

あとは、枚方第二校区でしたら、高齢者居場所がコロナ禍で開催しづらくなり、高齢者居場所に来られていた方々に生活アンケートを実施して安否確認を行うとともにフレイル予防のチラシに入れられたということで、その時々のお生活とか社会状況に応じた形で実施されました。また、返送のない人には個別訪問により全員の状況確認までされ、コロナ禍にあっても色々と工夫をもって取り組まれておられます。

香陽校区では、いろいろな活動をやろうとしても場所がないということで、校区外ではありますが、隣接校区にある聖徳園文化ホールを開放してもらえるように働きかけ、快くお貸しいただけることになり、校区の中だけでなく、周辺にも目を向けられて課題解決に努められておられるところもあります。

菅原東校区では、活動自粛にはなっているけれど、認知症予防のための啓発のチラシでありますとか、モップ付きスリッパをはいて家の中を動きながら掃除すれば1日の活

動量がこれで増えるということで、そういったものを配られたりしておられました。藤阪校区では、介護に関する知識や地域の担い手といったものをどうしていこうというところで、生活支援員養成研修の開催を検討して令和4年度に開催したため、この表には載ってはいませんが、研修では定員ほぼいっぱいくらい集まりました。実際に生活支援員として活動される方がおられるかどうかは別として、タイミングが合うと効果があるんだなどこちらも思いながらやっていただきました。

校区ごとに課題は様々ですし、色々な工夫、想像もしないような形で、課題解決に向けた具体策を実施されているというものが7ページまでのことになります。

次の8ページをご覧ください。

同じような地域課題ですが、日常生活圏域や校区単位ではなくて、市全域で具体策につながったものが、こちらということになっております。時間の関係もありますので下の2つだけ紹介させていただきます。

福祉用具、いわゆる杖や手すり、歩行器などです。介護保険で福祉用具の貸与を受ける場合はケアプランが必要となります。

福祉用具を活用することで、日常生活が自立しているケースについては、なかなか目標設定が難しいという声もあり、一定の条件に該当する、そう容易に状態の変わらない方については、認定の有効期間の満了までをケアプラン期間とすることを可能という形に令和2年4月から変更しました。また、福祉用具の活用で生活が自立するのであれば、何か違う仕組みが考えられないかということで他市の類似事例であるとか、市独自で何かできないかと検討を始めました。しかし、国の方で次の制度改正に向けて検討を始めたため、その動向も見ながら引き続き検討していきます。その背景にはケアマネジャーの人材不足というのが顕著にあるというところですので、何か手は打てないかということで色々検討しているところではあります。こういう取り組みを行っていますというのが、この先9ページからとなります。

資料の2ページにありました図の左側、第2層協議体や自立支援型地域ケア会議、多職種連携研究会などで抽出された地域課題を地域包括支援センター全体会議で取りまとめて、いくつかのテーマ毎に課題面のまとめ、取組みについてのまとめ、それを記載して考察を加えたものが9ページから先ということになっています。

前回の令和4年度第1回第1層協議体におきましては、第2層協議体において検討された地域課題やその検討状況等については、みなさまと共有いたしました。今回は、第2層協議体以外の地域ケア会議で抽出された地域課題やその検討状況等についてみなさまと共有し、検討していきたいと考えています。

しかし、テーマごとに全部読むと時間が無くなりますので、かいつまんで簡単に説明させていただきます。

居場所づくり外出支援については、感染リスクを懸念してやっていない、あるいはやっても人数を制限するなどコロナ前と同じようにはできなかったものが、そろそろ再開

していこうという状態にはあるのですが、高齢者居場所という登録はしていません。サロンであるとかそういったものがなかなか近所がない、あるいは移動が難しかったり、なかなか外出がしがたいという状況があります。後は、その活動の担い手自体が高齢化してしまって活動継続が難しくなっているということで、いかに続けていくかという課題も一方であります。

また、コロナ禍でオンラインでの介護予防教室を新たに始めましたが、地域でみんなで活動できるように、令和3年度に作成した「ひらかた夢かなえるエクササイズ」という2本のポールを使った運動のツールを地域の老人会とか自治会で取り組んでいただこうと地域包括支援センターが中心となって周知していきました。

あるいは、令和3年度の第1回の時にPFSという成果連動型民間委託契約方式の事業を実施するにあたり、第1層協議体から委員の選出をいただいた新しい介護予防事業も秋口くらいからスタートしています。どうしても運動が嫌だと、苦手だと、できないという人も含めて、趣味性の高いプログラムで、社会参加のきっかけをつくり、活躍の場を創っていこうと考えています。

医療介護連携については、専門職の方が中心となってくるのですが、医療の方々には介護保険の仕組みに対する理解、介護では終末期など医療ニーズが高まったときの対応に対する理解、医療と介護が連携することで、より良い仕組みとなり、一人ひとりに寄り添った医療や介護が提供できる体制が構築できると考えています。

12ページの高齢者孤立は、一人で住むことがいけないというわけではありません。言葉として「孤独」と「孤立」はどう違うのかということを考えてところ、孤独は客観的に一人で居れば孤独、孤立って孤立無援って言葉があるくらいくらいなので、好んで一人でいるのは孤独だけれど、好むと好まざるに関係なく一人でいる、誰も関心を持たない孤立はなくしていこうということだと思います。

国の制度として保健事業と介護予防の一体的実施というのが始まりまして、本市では令和3年度に第6圏域の協力を得てモデル実施、令和4年度から本格実施をしております。その中で健康状態不明者の把握として、医療保険も利用していない、健診も受診していない、介護保険も利用していない人を抽出して訪問するなど個別アプローチを実施しています。そういったところを孤立が解消されるような介入の糸口の一つとしながら、様々な取り組みを実施していこうと考えています。

続きまして、ご家族の支援についてということになりますが、どうしても遠隔地に親子分かれて住むということは避けられないところもあり、介護職がその分を負担するわけではないけれど、事実上そのような形になってしまい事業所の方がご苦労されている場合もあると聞いています。また、ご家族の方にどういったことができるのか、ご家族の方との意思疎通、役割分担というようなことも高齢者の方が増えていくと出てくる課題の一つとなります。

それから認知症については国の方でも地域で支え合える仕組みづくりということで、

	<p>認知症サポーター養成講座など地域で取り組む例示はあるものの、地域で活動するそもそもの担い手が少ないといったところが難しいのかもしれないと考えてはいますが、地域包括支援センターと一緒に検討しながら取り組みを検討しているところです。</p> <p>最後は地域包括ケアシステムの構築となります。これだけ急に話が大きくなりますが、第2層協議体であれば地域活動の担い手不足となりますし、介護職になってくれる人ということであれば、そもそも人口減少で世の中に人が少なくなっているという事実があり、難しいなと感じています。課題を真正面から解決するのは無理だから、無理で終わるのではなく、違う角度から考えたときにうまくいかへんかな、とかそういうこともあろうかと思います。そういった形で解決できないことを、ぜひここでいろんなお話をいただく中で、何か一つでも気づきになって、ああそんな手もあるのかとか、あるいはそういう考え方もあるのねと共有していきたいと思っています。</p> <p>長々と説明しましたが、皆さまにはぜひ私がここで触れたところ以外も含めてご意見をいただければありがたいなと思います。以上です。</p>
<p>介護支援 専門員連 絡協議会</p>	<p>事前にこの資料をいただいていた、すごく興味深く読ませていただきました。私はこの第1層協議体が始まったときから毎回参加させてもらっていますが、初めてこの資料をみさせていただきました。開始から6~7年経つはずですが、今までこのような課題をまとめたものが、なぜ出なかったのかなと思っています。</p> <p>今、最後に事務局が言ってくださったように、解決策はないかもしれないけれど、何かいい方法があったらっていうのは、まずは第2層協議体とかこの場で地域課題を挙げてくれないことには提案のしようがないです。皆さん、おそらくなんでここに集まっているのか分かっているのかなあっていう気もします。</p> <p>そもそも、一番最後にあった8番目の地域包括ケアシステムの構築について、これのために皆が集まっているから、なんで人材が足りないんだっていったら、別に介護人材が足りないんじゃないでなくて、日本の人口が減少しているからであって、高齢者が増えているからですよ。どんなに頑張っても絶対介護人材なんて増えないのだから、高齢者を支えるためには地域の皆さんが手伝って、協力して、なんとかしてあげてっていうのが、そもそもこの地域包括ケアシステムを創らないといけない理由ですよ。ただ、人だけではできない場合は、物で解決しなくちゃいけなかったりとか、今私たちがやろうとしているのは休憩場所を創ったりとか、集まる場所、皆ができるところを探さなくちゃいけないっていうことを「探しましょうよ」っていうのが本来のこの場だと思うんです。けれども、そもそもこのように課題を出してくれないと検討のしようがなくって、地域で何か起こっているのか、課題を出してくれないと私たちは知りようもない。だから解決策の提案もしようがない。もっと言えば、地域包括支援センター大潤会が色々なことをやっているのはお聞きしているんですけど、ここで解決できたことが、もしかしたら他の地域包括支援センターでも解決できるかもしれないのに、そこの共有も知らなかった。枚方市介護支援専門員連絡協議会の中で13圏</p>

域に各コンダクターを設置してというのは、地域包括支援センターと一緒に協働するためのものです。むしろ、各コンダクターの報告であそこの圏域では、こんなことやっているんだ、とかあそこでこんなこと取り組んでいるんだ、とかを知ったりします。私は第1層協議体に出ているのに、むしろ各コンダクターからの報告で分かることがわりと多かったです。

なので、この報告というかまとめで、今こんなことが課題になってますとか、こんな取り組みができていますとか、あの圏域では、こんなことやって成功しました、じゃあこっちでもできるんじゃないのかな、みたいなことが共有されていかないのかなと思いました。あるいは、地域の老人会で、この部分だったらうちで担えるかもしれない、うちが担当できるかもしれない、うちがこういうことできるかもしれないというのは今までもあったかもしれないのに、全然検討のしようもなかった、というのが何でかなと私はこれを読んでいて非常に悔しかったです。もうちょっと早く、年に1回でもいいので、今まで半年間やってきた、理想ですが、こんなこと上がってきましたよっていうのを言っていただいて、こういうことがあるのか、じゃこういうふうに対応できるかな、できないかな、解決できないから持ち越しだな、次の時にこんなふうに対応できた。あるいは、またこれが持ち越しで、持ち越し、持ち越しになるから市全体の課題として考えなくちゃいけない、みたいにやらなくちゃいけないと思います。本当は、本来この場合はそうでなければならぬかなというのが私の認識です。

課題のまとめが、やっと初めて出たというのは何でかなというのと、残念だな、悔しいなとそういう思いがありました。

あと、私がすごく思っていたのが、家族支援のところですね。家族支援というところで、確かに働いている家族が介護しているケースがとても増えてきています。私もそうなるんですけど、まさに私たち世代で親が80いくつになって介護して、介護離職、本来、介護保険が出来たのがこの介護離職を防ぐためにできているはずなんです。この介護離職、介護する人が離職するのではなくて、介護をするために離職する人を減らそうとしているのに、どんどん介護離職ができてしまっている。その1つに介護保険の制度を未だに知らない人がたくさんいらっしゃるのが原因かと思っています。窓口になるところを知らない方も結構いらっしゃいます。

例えば、市なり地域包括支援センターなり、土日でも介護相談ができるように、やっぱり働いているので平日だと行けない、平日の昼間だけとかいわれても行けないので、そういうのをやろうっていう取り組みがされていたのかなと思います。こんなのだって一番最初の時から出ていたら、今頃こんなシステムは出来ているはずなんです。どの地点でこれができ上がっていたのか、私たちにはかわからないけれど、そういうのが後手後手で、今になって6年目7年目になって、やっとまとめがでたのかなというのが残念です。今後はどういうふうに、またこれから6年も7年も経たないと課題が出てこないのかなと思っていたのですが、これが私の事前に資料を読ませてい

	<p>ただいでの意見です。</p> <p>やはり、負の遺産を未来ある子どもたちに引き継がせることがないよう、大人が少しでも現状を理解し、不自由を分け合い、負を負担しあい、力を出し合うことで、未来への負担を軽減できるのであればと思っています。一人一人の力は小さくても繋がれば大きな力になっていく、この場はそういった協議体であればいいなと思っています。以上です。</p>
事務局	<p>さすがに次が6年7年先ということはないです。この第2層協議体からは上半期、下半期で報告をいただいてそれを表にまとめてといったのが、この表であり、ずっと蓄積しているものとなります。</p> <p>表がどんどん長くなり、量が増えますので、年に1回になるのかもしれませんが、タイミングが合えば年2回出していきたいと思います。あと、自立支援型地域ケア会議等々からの課題をまとめて、この地域課題のまとめを作るのも地域包括支援センターと毎年度作成しておりますので、来年度もしかるべき時期にお出しできるかと思っています。</p>
介護支援 専門員連 絡協議会	<p>今回はなんでこんなに時間がかかったのですか。</p>
事務局	<p>この第2層協議体からまとめて提出していただく課題シートっていう形になったのは当初からではないです。それまで第2層協議体からは、会議録や実際のプランを提出してもらっていたのですけれども、そこの中からどういった課題があって、どう検討されていて、これは市全域で考える課題かということを会議録から抽出していくのが記録だけではすごく難しく、時間がかかっていました。そのため、2年が経過したぐらいからだと思いますが、会議録の別紙として課題抽出シート、課題をこれに書いてくださいという形に変えました。課題抽出シートの提出を受けて、さあやっというと思っていたら、課題シートの内容がコロナ禍で何もできなかったということばかりとなり、まとめたものを検討する状況ではなかったということです。</p> <p>また、9ページ以降のものは、地域包括支援センターが13のそれぞれの圏域ごとの取り組みというのを毎年まとめているもので、令和3年度の地域課題を今回ここにあわせて報告させてもらっているだけです。この資料は、各校区の取り組みと各圏域の取り組み、市の取り組みとを全体で見たうえで、この場で検討できるのは何かなと考えたかったので、あわせて報告させていただきただけで、各圏域の取組みをすべてこの場で検討するものではないと考えています。ただ、情報を共有することは重要だと思いますので、できたら今後もこういう形でまとめて皆さんと一緒に考えていけたらと思います。この場だけで解決できるものは多分ないと思うのですが、何かこう意見をもらう中で1個でも取り組みにつながればいいかなと思っています。</p>

介護支援 専門員連 絡協議会	皆さん、ここは何ための場だと思っているのでしょうか。今回初めてあつ、こういうことかってちょっとはわかっていただけたのかなと思います。本当にここまでののになんでこんなに時間がかかっちゃったのかなっていうのがちょっと残念だったとは個人的に思っています。今後は、こういう課題が前回は出ていたけれどこういうふうにできるようになりました。家族支援のところでは、土日祝日なら家族さんが相談に行ける、行きやすいときに窓口開いてあげれば、わりと解決するケースは出る。それに対してどういうふうに取り組みをしてくださっているのかとかね。
事務局	そこは地域包括支援センターだけでは解決できないことになります。市役所の中でも日曜日に窓口を設けている部署とかもありますので、そういう取り組みを市役所の中で検討していった上で、今度地域包括支援センターをどうするのかっていう話になります。そこに至るまではまだ、時間がかかります。
介護支援 専門員連 絡協議会	多分そういうことを、この場で共有すればいいのかなって私は思います。
枚方市老 人クラブ 連合会	枚方市地域包括支援センター運営等審議会に私は委員として出ているのですけれど、この第1層協議体に出るようになったのは、つい最近になるので過去はわからないし、何をしたいのかわからない、何のために来ているのかなって、いつもここで思っていたのですけれどね。枚方市地域包括支援センター運営等審議会の方では毎年具体的なものすごく実際活動されておられることに対して、すごくまとめて分析されているものを出されていて、ということをしていきますので、膨大な資料となっています。大変な作業だと思いますけれど、それが一番具体的なものとして出てくるので、わかりやすいです。
事務局	そうですね、枚方市地域包括支援センター運営等審議会では、地域包括支援センターの運営が適切に行われているかというのを、第三者的な目線で見てもらっているので、それぞれの地域包括支援センターの細かい業務の取り組みっていうことで分厚い資料が出てきます。ただ、枚方市地域包括支援センター運営等審議会では地域課題を検討して解決しましょうというのではなくて、適切にセンターが運営されているかチェックしている機関となります。
訪問介護 事業者会	ちょっと話が飛びますが、熱さっていうのかな、みんなが思っている熱さと、ケアマネジャーも同じで、訪問介護でもそうですけど、実際に思いがある人は地域に根ざしていくということに興味があるから、私なんかはパソコンで地域包括支援センターや地域から出てくる報告書等を時々見させていただいております。でも、実際ケアマネジャーやヘルパーが働いてる中で興味を持たなきゃいけない、この地域包括ケアシステムというのを特にケアマネジャーにどうやって説明してあげるのが良いのかって思っています。ケアマネジャーとして、コンダクターさせてもらったときでも自分

	<p>では一生懸命、地域包括支援センターも一緒にやるのだけれど、そのまわりの人たちに一緒にやってよって引っ張っていくと、温度差っていうのをすごく感じます。私たちが地域で何かあった時は福祉やコミュニティなんですよ、私たちが相談に行くのはケアマネジャーではないんです。福祉やコミュニティ、老人会であったり、民生委員であったり、その中でやっぱり駆けつけてくれるのは民生委員や自治会長であって、そこと一緒に地域でやっていく、これをどうやって広めていったらいいのかと、いつも感じていることです、以上です。</p>
<p>特別養護老人ホーム施設長会</p>	<p>そうですね、私もこの会議は2回目の出席になりますので、今までの定義のことは理解していなかったというのが本音です。特別養護老人ホームの施設長会では、普段色々運営全般的なことの話し合いをしていて、もちろん介護人材の質の話もあり、それに対しては、就職フェアを開いたりとか質を向上するための実習をしたりすることに取り組んでいます。また、東日本大震災があって、その後に福祉避難所という指定を特別養護老人ホーム施設長会の中で18施設が受けているのですが、この話も多分ここの第1層協議体と同じようになかなか話の内容が話し合われていないという状況で、この間も会議を開いて福祉避難所について話を進めていきたいと思いますということになり、市と今後継続して話し合いをしていくという話が出ています。そこで、ある程度どういう取り組みをしていったらいいかというものが、決まっていき、地域の方々にも協力してもらおうような形になるのではないかと思います。そのため、こちらの会議の中でも福祉避難所について周知したりする機会は出てくるのではないかと思いますので、今後そういうことについて何かありましたら、報告させていただきます。</p> <p>あと、市民後見人の話になりますが、施設で研修を受け入れたことがあるのですが、市民後見人の制度もどうなったのか気になっております。一人でも多くの方が市民後見人となり、なり手が増えれば色々つながりは増えるのではないかと思いますので、それについて、この場で話し合うべきなのか審議していただければと思います。</p> <p>あともう一つ、生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）についてですが、あちらの方の取り組みに関しても、コロナ禍で活動が停止していると思います。特別養護老人ホーム施設長会に受け入れの依頼があって、生き生きマイレージのサポーターの方々の受け入れをしてきた経緯がありますので、この事業に関しても今後活性化していけばいいのではないかと思います。そういったところも話し合っていければいいかなと思いました。以上です。</p>
<p>事務局</p>	<p>ぜひ、こういったテーマを取り上げて時間をとることでありましたら、会議開催のご案内を差し上げたときに、こういうテーマでこのくらいの時間が欲しいとお願いいただきましたら調整させていただきます。そういうかたちで、この場でやりたい、やっていただきたいとご意見をいただいたら大丈夫です。</p>

<p>事務局</p>	<p>生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）は、コロナ禍で施設側から受け入れを拒否されていたところがありまして、そろそろまた行けるかなと準備をしています。サポーターの方々は活動をする場をずっと待っておられますので、ぜひ受け入れてもらえたらなと思います。施設もそうですし、デイサービスにも行かせていただきます。地域の中では、高齢者居場所も受入場所として登録していただいています。地域の決まった定例の行事でサポーターを受け入れたいということであれば、ぜひまた事務局にご相談していただきたいなと思っています。ただ、ボランティアをしたという方々ではなくて、自分の介護予防のためにボランティアをする方々で、高齢者なので、受け入れの際に色々教えてもらったりということがあるかもしれないですけども、そうやって活動する場があることによって、活動している方の介護予防になるということになります。サポーターの受け入れとなると大変なこともあるかと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>あと、市民後見人に関しましては所管課ではないので詳しいことが説明できないため、またお調べして、直接ご報告させてもらいます。</p>
<p>デイサービス連絡協議会会長</p>	<p>僕は今回初めて参加させてもらっているのですがけれど、デイサービスでも認知症の方、うちにもたくさんいらっしゃいます。その中で、ジッとしていなくて外に出て行ってしまう方もいらっしゃいますし、「帰る帰る」って1日中言ってる方もいらっしゃいます。</p> <p>さっきちょっとお話された「孤独」と「孤立」の違いの部分がいい言葉だな、そややなと感じました。認知症がある方でも一人暮らししている方がいらっしゃって、マンションで暮らしていて鍵をなくしてしまったりとか、鍵なくして入れなくなってしまうとかもあります。また、マンションではゴミをまとめてカギを開けて捨てる場所があるんです。その開け方がわからなくなってしまって結局、他の方のところにポーンって捨ててしまったりとかがあったりします。結構そういった問題も起こりながら生活している方がたくさんいらっしゃると、このお話聞いていて思いました。そういった方も問題を色々抱えて生活しているのですがけれど、そういう方は介護サービスを利用している。ケアマネジャーがいて、僕らみたいなデイサービスを使っていることで、孤独の方、特に自分で一人で孤独がいい方、孤立状態になってしまった方でもサービスが入ってしまえば、誰かが手助けしてくれる状況ができています。それは、関わっているのがいいことだと聞いていて思いました。それとか、健康状態不明者、いわばグレーゾーンの方になるのですかね、認知症あるけど誰のサポートもないような方も、きっと民生委員や地域包括支援センターの方々がサポートしてくれていると思うのですが、サービスが入っている、誰かのサポートがある方というのはすごくまだ幸せな状態かなって、すごくお話を聞いていて思いました。実際うちの利用者でもいらっしゃいますけど、親の介護を2年、3年とされていて、僕と年の変わらない方が仕事をしていなかったりというのがあります。その方は仕事をするよう動き</p>

	出しているようなことはあるのですが、きっと介護で仕事ができている、何年も仕事できていなくて、高齢者だけでなくそれをサポートしている方が次のステップに進めない、進もうとしてもできなくなってしまう状況があるのかなっていう、そういうことをこういう場で話し合い、どうサポートしていくかっていうのが結構課題になってくるのかなって思いました。以上です
事務局	すみません、漢字辞書の話みたいになってしまいましたが、意図するところが伝わっていてよかったです。
デイサービス連絡協議会会長	孤独が好きな方もいらっしゃいますよね。一人暮らしで、お迎えに行ってもいない方がいらっしゃるんです。デイサービスですよって言っても忘れてるので、お迎えに行っても買い物に出ているとかあります。その方って、たぶんそんなに人との関わりを必要としていないんです。ただ、やっぱり認知症があつて忘れることがある。だから僕たちがちょっとサポートすることで生活が成り立ったりとか、あとは孤立状態とかって方がデイサービスに来ることで幸せになるとか、仲間ができたりとか、ハッピーな状態になるっていう、そういう意味での言葉として響きました。
事務局	ありがとうございます。
コミュニティ連絡協議会	本日の会議は欠席者がいるようですが、こういう会議は開催する前に大体の日程を皆さんにお聞きになって頂き欠席者になるべく出ないようにお願いします。 成年後見のことは社会福祉協議会が担当ですよ。
事務局	はいそうですね。
コミュニティ連絡協議会	もし質問が出ても皆さんが出席されていたら質問にも答えられると思いますし、意見が言えるのではないかと思います。 私は校区のコミュニティの会長をしていて、そこで元気づくり・地域づくりに関わっているので自分の校区のことを話していいですか。
事務局	いいですよ。
コミュニティ連絡協議会	この資料の6ページに載せていただいておりますが、ちょっと前のことですので、今どうなっているのか説明させていただきます。 聖徳文化ホールを借りて実施しておりましたが、やはりコロナ禍で外に出てくることも難しい方もおられるので、自治会館をお借りしてそこに近隣の方々をお呼びして体操するという取り組みに変更しました。コロナで休止していたもの今は月に2回ずつ集まって15~16人(自治会館に入るのはそれでいっぱいなのですが)、そこで体操したりいろいろなことをしています。地域包括支援センターさんにも来ていただいて、それぞれ参加している方々が、自主活動として実施してくれるようになるにはどうすればいいのか、今話し合っています。 同じような活動を老人クラブからずっとやっているところもあり、いま2つ目に取

	<p>り組んでいます。先生に来ていただいて指導してもらい前に自分たちで準備してちょっとでも、ひらかた元気くらわんか体操やっておくなど、少しずつ前に進んでいます。</p> <p>ただ今後それを自分たちで全部することになると負担でもあるし、高齢化もしているし、どうするか悩ましいところですが会議を月1回開催して今後の自主化について検討しています。校区にいくつもこういう集まりができれば結構活性化するのではないかと考えています。</p> <p>また、今日は介護支援専門員連絡協議会さんがおっしゃる通りだと思っていました。</p>
事務局	<p>香陽校区では、ずっと活発に体操をやっていただいている、どうしても場所の問題があると思うのですが、校区内に自治会館というのはたくさんありましたか。</p>
コミュニティ連絡協議会	<p>ありましたけれども、そんなに広くないところもありますし、やっぱり坂が多いので、そこまで行くのにちょっと時間がかかったりとかします。この立ち上がっている2つの「きずな会」と「エール香陽」、この2つの集会所は平坦な道なので、そこでお互いに花見をしようとなっていて、こっちの人達がそこまで歩いて行って、そこで花見をしてその公園で体操しようとなりました。去年もやって、今年もすると言っておられます。ただ、なかなか場所については、自治会の何かを借りるとなると、よその方にはどうなのかなというのがあるって躊躇していたのですが、その自治会長の思いはどうぞどうぞということだったので良かったです。それぞれの自治会に全部、会館があるわけではないのでちょっと難しいかなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
ナルク	<p>私ね、ずっと順番で来てるなって感じていたんですよ。そこで、どういう話題にしようか考えていて、ボランティア団体でこの会議に参加させてもらっているのはナルクだけですよ。僕も第1回目の最初から出席してますけど、まだよくわからないことが多いので、みなさんの中にもナルクっていうのをあまりご存知ない方も居られるので、私たちボランティア団体がどう地域に関わっていくのかということをお伝えできたらと思いました。</p> <p>いつも私なりに悩んでいるのですが、宣伝になってしまうのかどうか分かりませんが、どんなことをしているのかということをお話させていただいて、また逆にこんなことできないのかなとか、ご意見があれば動いていきたいと思っています。</p> <p>枚方市ではだいたい700人くらい会員が居るのですが、よく聞くのは会員だけの数やないかと僕もよく聞きます。そりゃそうですけど、平均年齢が77. なんぼです。約78になっています。いわば高齢者の団体ですが、みなさん元気です。枚方を10地区に分けて、各1地区は年2回に会合とか集まって、色々な活動をちゃんと話し合いしなさいということで、年2回は必ず集まるようにしています。そこでやっぱり高齢者の集まりですので、色々な勉強したり、同好会みたいなものしたりして、元気な力</p>

	<p>をいただいております。今、僕的感覺ですけれど、4~5年前まで会員の中に要支援の人はほとんどいませんでした。コロナになって、要支援の人がぼちぼち増えてきております。年齢も上がったこともあって、要支援になる方も増えてきています。でも、基本は元気な高齢者です。団体として地域に貢献ということでこういう場に参加させてもらっていますが、今担わせてもらっているのは生活支援員の養成研修です。大阪高齢者生協と交互に開催させてもらっています。最近、やっぱり受講者が少ないです。参加される方は10人前後と少ないですが、すごく熱心に、問題意識持って来られます。しかし、いざ活動してくださいと言ったらなかなか来てくれないのが現状です。生活支援員の養成研修と生活援助訪問事業、地域包括支援センターから依頼を受けて要支援の利用者のところにお手伝いというのですかね、家事の支援をしています。今、うちには60人くらいの利用者さんが居られますけど、これで精一杯です。これ以上増えると手が届かない。と言うのは生活支援員がいないんです、生活支援員が増えない。コロナもあってずっと横ばいできている状況です。利用者数は50人か60人かの間をずっと行き来しています。第2層協議体で色々検討されていますけれど、私たちがどう関わっていくか、会員には一生懸命、フレイルから要支援にならないように色々活動するよう促しています。1つの事例として、先週ラポールで研修の一環としてフルートとかの演奏を一般募集したら、市民の人も少し入れて110人も来られて、びっくりしましたね。みんな外に出るのを楽しみにしている、そういう活動を僕らはしていきたいなと思っています。ただこういう中身までは、どう入っているのか僕もずっとわからないままこの場にきていますけれど、校区の中にはなかなか入れないのですけれど、ただ僕らができることは、いっていただければと思います。そういうことで様々な活動をしていきたいと思っています。宣伝のようになりましたが、ご理解していただこうと思ってお話ししましたので、また色々ご指導してください。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>この介護予防・日常生活総合事業は、最初に介護支援専門員連絡協議会さんがおっしゃっていたように人材不足、若い方というのはどんどん減ってくるので、元気な高齢者が自分ができることをすることによって、活躍の場が増えて、どんどん地域の中で支え合っていこうよという社会をつくっていくことです。生活支援員の養成研修にはお若い方があまりおられないですよ。</p>
ナルク	<p>最近ちょっと来ていますよ。十数人ですけどね。この前は平成生まれの方が来てみんな喜んでいただけですけどね。結局、活動はしてくれませんでしたけれどね。勉強になりましたということで帰られています。研修を受けてくれるだけでもと思っています。</p>
事務局	<p>自分が住んでいる地域の中で何かやりたいという思いの方もおられるし、反対に自分の地域の中ではちょっとイヤだなと、特に若めの方なんか、まだまだ地域の中で活動するのが恥ずかしい、であったりちょっとというのであれば、こういった生活支援</p>

	<p>員など市全域の取り組みに参加することによって、活躍できる場があればいいなどは思っています。その中で、地域でも何かやってみようとか、生き生きマイレージ（介護予防ポイント事業）のサポーターをやっていこうとか、色々な選択肢、多様性っていうのが必要になって思いますので、その一つではあると思うのですよ。もちろん若い方も様々な役割を担っていただけたらいいですけど、そもそも介護の方の人材も不足している状態なので、お元気な高齢者の方が生活支援員として働いてもらって、なんかすごく人の役に立った、よかったわって感じてもらえる仕組みにしたいなどは思っているので、全然ナルクは場違いではないので大丈夫です。</p>
ナルク	<p>調子にのって、もう1つ言っていていいですか。もう少し介護報酬を増やして欲しいです。ちょっとやっぱり厳しいです。みんな、ボランティア精神で頑張っていますが、それはわかっていると思いますが、敢えて皆さんの前でお伝えしておきます。</p>
大阪高齢者生活協同組合	<p>今、ナルクからありましたように、生活支援員の養成、それとうちは生き生きマイレージの事務局として、現任研修と新任研修とそれからマッチングやらせてもらっています。元気な高齢者がもっと元気になって活躍する場があれば、やはり介護に至るリスクが低くなりますよね。そうなってくるとさっき事務局がおっしゃったように、多様な選択の場を創っていく必要があると思います。生活支援員っていう1つの限られたところだけでそれをやろうと思っても非常に難しいです。ちょっと心配なのは、次期の第9期の介護保険制度改正の中で要介護1・2のが介護予防・日常生活支援総合事業に移行するっていう話ですが、国は第10期が始まる前までに結論を出すとなっています。市町村の話をお聞きするとは言っていますが、枚方市はどう考えているのかなと思っています。あとは、やっぱり言われたように生活援助訪問事業の介護報酬が低いものだから、確かに意欲のある高齢者は参加をしますが、ちょっと若い、ちょっと若いっていうのは60～70代の方は難しいかと思っています。とは言っても、介護保険が始まって20年がたち、40歳で介護の世界に入った人が今では60歳になっています。50代の方は70代に、それでも続けている人は続けていますが、介護保険の認定者数は被保険者数の2割を切っています。残りの8割は元気な高齢者なので、元気な高齢者が活躍できる場を創っていく、私たちはそういったことを基に組み合わせてしているので、そういった場を枚方市でもどんどん創っていきたくと思っています。</p>
事務局	<p>そうですね、なかなか介護報酬のことを言われると耳が痛いというかなんというか。</p>
ナルク	<p>僕らで声出していきますので、この仕組みをつぶしてはダメですよ。介護報酬をあげてくださいよ。</p>
介護支援専門員連絡協議会	<p>ぜひ私たちも巻き込んでもらいたいです。訪問介護事業者会さんが言っていたようになかなか浸透しないのです。浸透しないと5年後、何十年後にみんながわかってくれたらいいわ、ってわけではないと思うのです。どんどん、せめてここに参加されている方を巻き込んでいただいて、ここからまわりに、それぞれがまわりについて</p>

	<p>していかないと、多分いつまでもそこだけで話し合っ、そこだけで納得して、いつまでもたっても何も出来上がらないと思いますし、せつかくここに来られているのに何のためにきているのかよくわからないままでは意識が持てないので、ぜひ巻き込んでいただいたらいいなと思いました。ありがとうございました、すみません。</p>
<p>地域包括支援センター</p>	<p>まさに介護予防・日常生活支援総合事業の介護報酬の単価の話とかは、ここで議論していく案件だと思うので、根拠を持って訴えたらいいと思います。</p> <p>市の思いと現場の思いがどう合うのか、修正していったらいいと思うので、このような発言をするための会議やと思います。</p> <p>介護支援専門員連絡協議会さんはすごく思いを持って参加しておられるので、そもそもこの定義は地域課題を解決するためというところの認識は一致したので、かつ今日の発言で各会の課題もここにあげて議論してもいいということだったので、事前に課題をすり合わせたというシステムがいいかなと思いました。今までなんでやねんというのはおいておいて、今後は定期的で開催していきたいと思いました。コロナで延期というのが大きかったと思うので、定期的に課題を検討するために開催する。そのために、こういうざっくりした課題じゃなくて、具体的なここで上げるべき課題を事務局が精査してあげていけたらいいかと思います。この大きな会議で、ここでは解決できないと思うなら、分化会を作っていく仕組みなど、もっと課題の解決に向けた仕組みを細かく作っていったらどうかなと思います。</p>
<p>地域包括支援センター</p>	<p>今日の資料にある地域課題は、私たちが全体会議で地域課題を集約してきたものです。担当の運営委員になった人が1年間頑張っ、平成30年からやりだして、最初はバラバラで、ちょっとずつカテゴリー分けなんかもして、きれいなものに仕上がったのが3年くらい前かなと思うのですが、本当に私たちがんばって作ってきました。課題の整理をしたままここから先についていう道筋がなかなかつかなくて、みんな悶々としていまして、これで少し道が開けた感じがしました。個人的にうれしく、みんなうれしいと思っています。たくさん助かったなと思っています。</p> <p>地域包括支援センターは市から業務委託を受けている仕様の範囲内での仕事という中で、すごく悩ましい部分もありまして、私が言う話ではないですが、でもちょっとでも良くしていこうと地域包括支援センター安心苑とやり始めているところがあります。ある地域でタクシーの乗り合いの場所づくりに取り掛かっています。それも、地域課題から今やり始めていて、校区が重なるからうちも一緒について声かけてもらって、やりはじめようかなって思っていることがあります。これが上手くいったら、第2層協議体とか第1層協議体でも話していけるとと思いますし、こういう話も共有していけたらいいと今日は思っています。そういう話をもっと別のところからも出て、いろいろ広がっていくこともありえるのかなと、今後の会議の運営の仕方によって進んでいきそうやなってうれしく思っています。</p>

<p>地域包括支援センター</p>	<p>地域課題がようやく日の目を見たなって地域包括支援センターの管理者は多分全員うれしい、本当にうれしい思いをしていると思います。この会の目的というのも地域ケア会議の推進会議ということで位置づけとしてはきちんとされているのですけれど、今まで機能していたのかというと、ちょっと疑問な部分もあったので、その辺りが今日、ふわっとですけれども、この会の目的というのをみなさんがわからなかったということがわかったので、そこからここは何をしていくところかっていう共通認識を持って、出された課題に対して優先順位をつけて取り組んでいきたいと思っています。それがここだけの解決でなくて、また地域包括支援センターにも広がってってということも、勿論あるのでしょうけど、そういうふうに描いた会議体の図があるのですけれど、絵に描いた餅ではなくてちゃんと動き出すように何とかエンジンをかけていかないとと思いました。もう待たないのころまで来ていると思うので、しっかりと私たちも取り組んでいきたいと思ひますし、行政の方にも取り組んでいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
<p>地域包括支援センター</p>	<p>地域課題がこういう形が出たことが、また話を聞いて胸が、どっちかと言え私にも興味関心があるから、熱いのですけれど、うれしく思っています、ただ事務局がすごく大変になると懸念しています。事前に企画調整が入って、皆さんの意見を集約するとかいうような段階を踏んで、この場で検討するものだとは思ひのですけれど、この第1層協議体の皆さんが我が事として協力していただいているのもうれしく思っています。皆さんそれぞれ取り組みに忙しい中、市がこの案件で行くと方向付けは行政の政策なので決定は市が行います。それに対してみんな協力していくってことが、すごく雰囲気も大事ですし、それは知らんとか少しでもそういった気持ちがあったらほころびるし、行政も人だから折れちゃうとか私たちもそうですが、そういうこともなく、1枚になるというのが大事なんだろうなと思ひたところなんです。またよろしくお願ひします。</p>
<p>地域包括支援センター</p>	<p>私自身、管理者になってまだそんな経っていないので初めて参加しました。全体会議の中で運営委員をやらせてもらっているのです、こういう課題あるよなって痛感するのと、うちの取り組みの発表になってしまいますけれど、介護支援専門員連絡協議会さんにご協力いただけてますけど。家族支援のところの課題にあるのですけれども、私ども長尾の方になります第11圏域では、介護者家族の会っていうのを今年度、令和4年度に開催させていただきまして、まだまだ赤ちゃんの段階なんですけれども、それこそ多職種色々な方のご協力を得ながら、高齢者を支える介護者も孤立しがちなのです、高齢者のみならずその周囲の方々の支援っていうのも必要だなと思ひて取り組んでいます。よろしくおねがひします。</p>
<p>地域包括支援センター</p>	<p>こんな大きな場でお話するのは苦手なのですけれど、うちは藤阪の方の第12圏域を担当させてもらっていて、介護支援専門員連絡協議会さんに会議に参加していただいたときに、ちょうど社会資源である色々ないきいきサロンを、どうにか活性化できない</p>

	<p>かというところを検討しました。うちには病院があるから、そこでは色々な職種がいますよ、例えばこんな講座ならできますと一覧表をつくって参加している皆さんにお配りして下さったんです。そうしたら、ある1つの老人会がそれを取り入れてくださり、次の会議で、うちは病院呼んでこんな会したでって発言されて、じゃあうちも真似しようみたいな感じであっちにもこっちにも広がっていきました。サロンもそうですけれど、老人会の方もその先生が来るなら参加させてもらおうかなっていうことで出席率もちょっと増えるようなところもあって、やっぱり様々な職種の方が関わってくださると活性化していくなとありがたく感じています。</p> <p>それからやっぱり担い手不足、ってところから生活支援員の不足っていうのを何とかしようと生活支援員の養成研修を地域の中でできないかなと提案させていただいて、令和4年度に開催させていただいて、ものすごく地域の方々が集まってくれました。残念ながら登録にはいたらなかったのですが、仮登録までは皆さんスムーズにしてくださって、いい研修やったということで帰っていただきました。半年経っても結局は登録されずで、すごく残念ですが、じゃ次年度どうしよう、同じようにやってみようかという声もある中、それだったらうちの校区だけじゃなくてももうちょっと視野を広めて東部地区とか大きなところでやったらという案も出たんです。でもそうすると第2層協議体の取組みじゃなくなると思います、もうちょっとエリアを考えた養成研修というのを考えていただけたら、そこに住んでいる方も研修を受けやすくなるんじゃないかなって意見が出ていました。</p> <p>こういった課題もまたこの場で共有出来て、市の方でも検討していただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>今回、地域課題を案件にするにあたって、どうのご意見いただこうかなと思いがら不安もありましたが、皆さんから前向きなご意見をいただき、個人的な感想かもしれませんが、案件として資料をお渡しできてよかったなと思います。今後も地域課題をまとめて、皆さんと共有していくことで、様々なご意見が出てくるのかな、その中で一つでも何か解決に向かって取り組んでいけたらと思いました。</p> <p>さて、お約束していた時間がもうそろそろ近づいてきてはいるのですが、何か言い足りない方はございませんでしょうか。</p> <p>そうしましたら、今後も皆様から頂いたご意見を基にやり方等々も含めて考えて、課題を共有してここで検討していこうと考えていますのでよろしくお願いします。</p> <p>それではこれで、第2回第1層協議体を終了させていただこうかと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>